

明石と宮本武蔵 庭園造り

宮本武蔵は城下の町割り(町屋の基本設計)を行ったと伝えられている他に、城内に樹木屋敷と呼ばれる庭園を造ったことが、小笠原家の記録に記されている。また、城下の寺院(善楽寺円珠院・本松寺・雲晴寺)の庭園も武蔵が造ったという伝承がある。



円珠院庭園(大観町)



本松寺庭園(人丸町)

あかし歴史のまち 「文化財ウォーク」

明石城から
旧波門崎燈籠堂までの
文化財をめぐる



明石城石垣全景(南面)

明石藩 歴代藩主

家	代	名前	前任地	明石藩在任				転封・移動年月	転任地・退任区分
				入封年月	官名等	禄高	期間		
①	1	小笠原 忠政	信濃松本(8万石)	元和3年(1617)7月	右近大夫	10万石	16年	寛永9年(1632)11月	豊前小倉(15万石)
②	代官(月交代)	本多 忠義	*姫路藩主本多忠政の子	寛永9年(1632)11月	能登守	幕府直轄	6ヵ月	寛永10年(1633)5月	〔―〕
		本多 政勝	*姫路藩主本多忠政の甥		内記				
③	2	松平 康直	信濃松本(7万石)	寛永10年(1633)5月	丹波守	7万石	1年	寛永11年(1634)5月	〔死去〕
	3	松平 光重	〔家督相続〕	寛永11年(1634)5月	丹波守	7万石	5年	寛永16年(1639)2月	美濃加納(7万石)
④	4	大久保 季任	美濃加納(5万石)	寛永16年(1639)3月	加賀守	7万石	11年	慶安2年(1649)7月	肥前唐津(8万3千石)
⑤	5	松平 忠国	丹波篠山(5万石)	慶安2年(1649)7月	山城守	7万石	11年	万治2年(1659)2月	〔死去〕
	6	松平 信之	〔家督相続〕	万治2年(1659)2月	日向守	6万5千石	21年	延宝7年(1679)10月	大和郡山(8万石)
⑥	7	本多 政利	大和郡山の内(6万石)	延宝7年(1679)10月	出雲守	6万石	4年	天和2年(1682)2月	陸奥岩瀬(1万石)
⑦	8	松平 直明	越前大野(5万石)	天和2年(1682)3月16日	若狭守	6万石	20年	元禄14年(1701)10月25日	〔退任〕
	9	松平 直常	〔家督相続〕	元禄14年(1701)10月25日	但馬守	6万石	43年	寛保3年(1743)2月20日	〔退任〕
⑦	10	松平 直純	同	寛保3年(1743)2月20日	左兵衛督	6万石	21年	宝暦14年(1764)3月20日	〔死去〕
	11	松平 直泰	同	明和元年(1764)5月10日	左兵衛督	6万石	21年	天明4年(1784)10月10日	〔退任〕
⑦	12	松平 直之	同	天明4年(1784)10月10日	左兵衛佐	6万石	2年	天明6年(1786)4月14日	〔死去〕
	13	松平 直周	同	天明6年(1786)6月7日	左兵衛督	6万石	30年	文化13年(1816)9月14日	〔退任〕
⑦	14	松平(直) 斉韶	同	文化13年(1816)9月14日	左兵衛督	6万石	25年	天保11年(1840)2月26日	〔退任〕
	15	松平 斉宜	同	天保11年(1840)2月26日	兵部大輔	8万石	4年	天保15年(1844)6月2日	〔死去〕
⑦	16	松平 慶憲	同	天保15年(1844)7月17日	兵部大輔	8万石	26年	明治2年(1869)2月8日	〔退任〕
	17	松平 直致	同	明治2年(1869)2月8日	左兵衛督	8万石	5ヵ月	明治2年(1869)6月19日	〔版籍奉還〕
		松平 直致	〔任命〕	明治2年(1869)6月19日	明石藩知事		2年	明治4年(1871)7月15日	〔罷免〕(廢藩置県)

<凡例>「家」/ ①: 小笠原 ②: 本多(※代官) ③: 松平(戸田) ④: 大久保 ⑤: 松平(藤井) ⑥: 本多 ⑦: 松平(越前)

明石の町の基礎となった城下町。その城下町の中心部を「明石城本丸跡」から歴史のある町を通って、港の入り口にある「旧波門崎燈籠堂」まで訪ねてみましょう。



明石城天守台と坤櫓(西面)



旧波門崎燈籠堂

現在に息づく歴史ある町



魚の棚商店街



船町周辺

モデルコース

- 明石市立文化博物館
- 徒歩10分
- 明石城本丸跡
(天守台・坤櫓・巽櫓・人丸塚)
- 徒歩10分
- 織田家長屋門
- 徒歩10分
- 魚の棚商店街
- 徒歩10分
- 宝林寺
- 徒歩5分
- 明石港
- 徒歩すぐ
- 船町周辺
- 徒歩すぐ
- 岩屋神社
- 徒歩5分
- 旧波門崎燈籠堂

協力 / 観光ボランティア
ヘリテージ明石
生船研究会
あかし市民図書館



明石城と城下町

元和3年（1617年）、徳川幕府2代将軍秀忠の命により小笠原忠政（のち忠貞）が明石へ入封し「明石藩」が誕生した。大坂夏の陣（1615年）により豊臣家は滅亡したが、徳川幕府にとっては旧豊臣方であった西国大名たちは大きな脅威であり、彼らに対する監視の役目として徳川家康ゆかりの重臣である本多家を姫路に配し、その後衛の明石に小笠原家を配置した。

小笠原忠政は、当初、明石川西岸の船上城に入ったが、翌年、新城の築城を命じられ、姫路藩主本多忠政と共に候補地を「人丸山」と定め、将軍秀忠の許可を得た。幕府より費用の援助と築城奉行為派遣され、城の主要部分である「本丸」「二ノ丸」「三ノ丸」の石垣・堀は幕府によって築かれた。屋敷などの建築や外堀・城下町・街道・港の整備は小笠原忠政が行った。

1 明石城 本丸跡 ※表紙に写真

本丸の四隅にはかつて三重の櫓が建てられていたが、明治維新後に北側の2基が取り壊された。現存する櫓は南西隅の坤櫓と南東隅の巽櫓の2基で、方位により名付けられる。共に国の重要文化財に指定されている。坤櫓の北に天守台の石垣が築かれているが、天守の建物（天守閣）は建てられなかった。天守台や坤櫓からは西の加古川方面や南の明石海峡を見渡すことができ、西の海上監視を重視していたことがわかる。この本丸には古くから、歌人として知られる柿本人麻呂を祀る社があったが、築城により東の山上に移され、柿本神社として祀られている。元の社は人丸塚として築城後も城内で祀られた。

2 中堀

現在残る堀は城の中核部を守る中堀であり、西不明門・太鼓門・東不明門により出入りを監視した。



3 織田家長屋門

第8代藩主松平直明の客分として明石に入り、後に家老職を務めた織田家の屋敷門。城下町明石に唯一残る武家屋敷の建物。明石市指定文化財。



4 外堀跡

城の南に配置された武家屋敷地と町屋を区切る堀。城の正面に「追手門」が設けられ、西には「樽屋門」「王子口門」、東には「細工門」「大蔵門」が配置された。

城下の町屋
町屋は城下町建設時に外堀の外側（南）に配置された。当初、職人が暮らす鍛冶屋町・細工町等や商人が店を構えた西本町・東本町等の町が計10町あり、後に、西新町・東新町等が加わった。町屋の基本設計は剣豪で知られる宮本武蔵が行ったと伝わる。

5 魚の棚 ※表紙に写真

城下町建設当初、魚類を商う魚町が東西にあり、西魚町は干物、東魚町は生魚を扱っていた。この東魚町が今の魚の棚商店街となった。

6 西国街道

九州と大坂を結ぶ江戸時代の主要街道。城下町建設により明石川―大蔵谷間が付け替えられた。西に姫路口門、東に京口門があった。



姫路口門「播州名所巡覧図絵」

7 宝林寺

本尊は平安時代の様式を示す聖観世音菩薩で兵庫県指定文化財。江戸時代には、寺の前まで港が細長く入り込み、船手奉行配下の水主たちが住む水主町があった。また、この付近には多くの寺院が集まっていて、城下町西部の「寺町」を形成している。



明石港

城下町建設時、町屋の南に、東西に細長い堀状の港を築き、城の大手筋の延長線上に港口を設けた。掘った土を海岸部に積み上げた所が現在の中崎で、その後、港の掘り浚えによって出た土砂を港口の西側に積み上げた所が、築山となった。

8 船町周辺 ※表紙に写真

江戸時代から続く櫓漕造りや漁具など、船や造船に関する工場や商店が多く集まる。特に、明治時代以降の船舶用発動機（焼玉エンジン）の製造が盛んで、活魚の運搬船（生船）に多く使われた。

9 岩屋神社

平安時代に編纂された『延喜式神名帳』に載り、海上安全・漁業繁栄の神として信仰を集める。淡路島より神を迎えたことに由来する神事「明石浦のおしやたか舟」は明石市指定文化財。



10 旧波門崎燈籠堂 ※表紙に写真

城下町や港の建設以後、港口の目印として設けられた燈籠が、後に、石積の上に火を灯す部分を載せた形になったと考えられる。昭和38年（1963年）に港口の灯台としての役割を終えた。明石市指定文化財。